

中国語学習の問題点

——テキストを巡って——

安 本 武 正

Problems in learning Chinese

——Concerning the textbooks——

Takemasa YASUMOTO

駿河台出版の『珠穆朗瑪峰・世界最高峰の奇跡』というテキストの「まえがき」に注意を引く一節がある。それは、「私は、かねがね、日本の中国語テキストは過保護であると考えている。せめて中級のみものともなれば、拼音や注をできるだけ少くして、さかんに辞書を引く練習をすべきである」という編著者の言葉である。私もかつて、『日本における中国語教育の発音・声調・イントネーションの問題点について』（八戸工業大学一般教育部『研究会会誌』第3号）を書いた時、この問題を考えた事があった。

上の編著者の言葉は、私には充分理解できるが、しかし、これはただ中級の読物だけの問題ではなく、他のテキストにも言える問題でもあろう。これを中級の、そして読物だけに求める事は、ある意味においては少々酷すぎるような気もする。また拼音や注をできるだけ少くすると言うが、ではどの位少くするか、その基準はどこに置くのか、これも明白にする必要があろう。そしてさかんに辞書を引く事となれば、それにはこれに適う辞書があるべきで、果してそのような辞書が今のところ存在するのであろうか。残念ながらはっきりとそうは言えない面もあろう。

日本の中国語テキストには、以上に述べた事の他に、まだ問題があるような気がしてならない。たとえば、テキストの本文や例文、また文法事項などにも、しばしば間違っているか、或いは疑問を感じるような箇所に出会う事がある。

以上に触れた事を考えた場合、ただ中級の読物だけではなく、多少範囲を広げて、日本の中国語テキストを考えてみる必要があるだろう。

二

具体的にテキストを検討する前に、幾つかの事を先に述べて置く必要がある。

第一点は、現在中国で使用されている文字は漢字であり、これからの相当長い間もやはり漢字であるという事。

中国の『文字改革』という雑誌が1982年7月から復刊して、特にその1983年1月号から、『漢語拼音方案』公布25周年記念をきっかけに、盛んに中国語文字のローマ(ラテン)文字化か、またはローマ字と漢字の混合体文字化が論じられている。また、日本では、NHK教育テレビで岩波『日中辞典』の著者を囲んで懇談した時に、ある有名な文学博士が「中国の文字はローマ字になる、これからの百年の間に」というような発言もある。だが、このような事が現実となれば、冒頭に述べた「拼音の過保護」などは、当然な

昭和59年10月31日受理

* 一般教育部講師